

世界の主な地震

令和元年（2019年）11月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

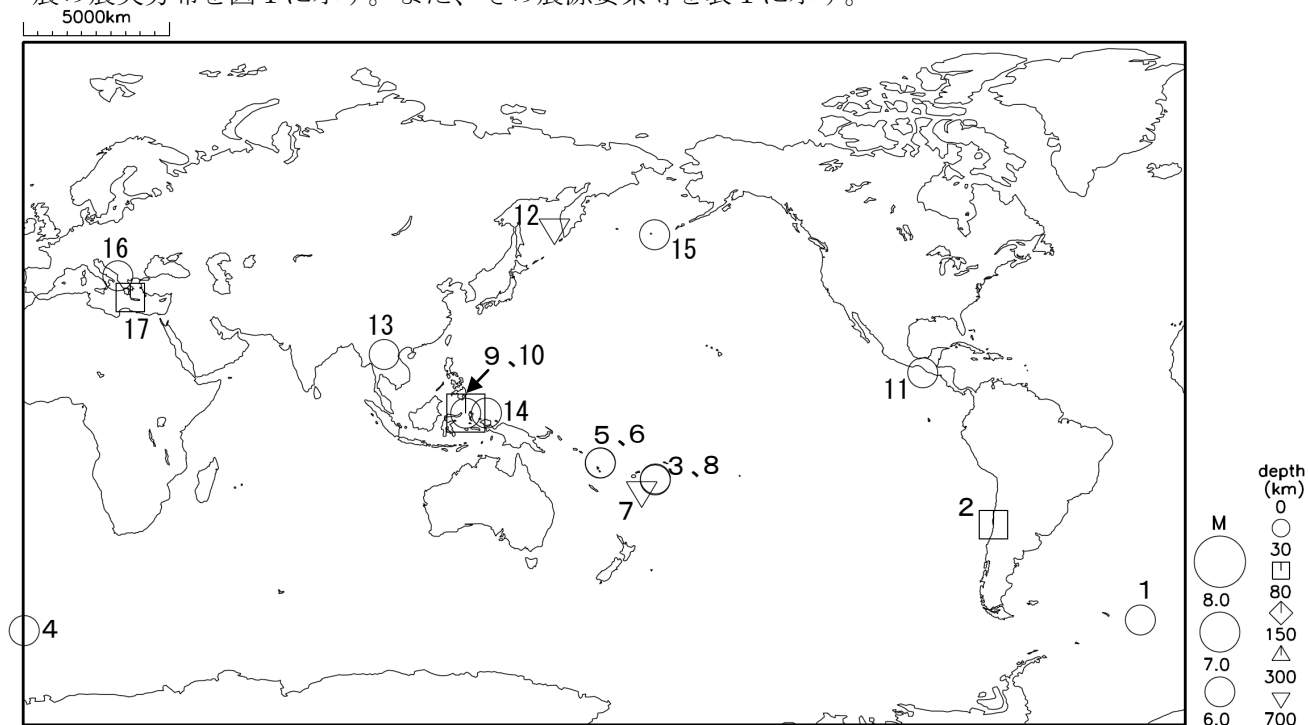


図1 令和元年（2019年）11月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

表1 令和元年（2019年）11月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	03日03時08分	S55° 39.9′	W 26° 14.0′	8			6.1	サウスサンドウィッチ諸島			
2	05日06時53分	S31° 50.1′	W 71° 22.5′	53			6.1	チリ中部沿岸			
3	05日07時43分	S18° 34.4′	W175° 16.3′	10			6.6	トンガ諸島			
4	06日05時52分	S57° 57.8′	W 9° 16.2′	10			6.3	サウスサンドウィッチ諸島東方			
5	06日08時17分	S13° 48.3′	E167° 44.4′	10			6.0	バヌアツ諸島			
6	06日09時39分	S13° 43.2′	E167° 48.5′	10			6.0	バヌアツ諸島			
7	08日19時44分	S21° 58.1′	W179° 29.4′	583			6.5	フィジー諸島			
8	12日08時03分	S18° 53.1′	W175° 21.5′	10			6.1	トンガ諸島			
9	15日01時17分	N 1° 37.7′	E126° 24.8′	33			(7.1)	モルッカ海	負傷者3人など	○	○
10	15日06時12分	N 1° 34.0′	E126° 24.8′	23			6.0	モルッカ海			
11	20日13時27分	N13° 58.9′	W 93° 07.7′	11			6.3	メキシコ、チアパス州沖			
12	20日17時26分	N53° 09.7′	E153° 41.1′	487			6.3	オホーツク海			
13	21日08時50分	N19° 27.0′	E101° 20.6′	10			6.1	ラオス			
14	23日21時11分	N 1° 37.7′	E132° 47.1′	10			6.1	インドネシア、イリアンジャヤ			
15	24日09時54分	N51° 31.6′	W175° 33.5′	25			6.3	アリューシャン列島アンドリアノフ諸島			
16	26日11時54分	N41° 30.6′	E 19° 30.9′	20			6.4	アルバニア	死者51人など		
17	27日16時23分	N35° 43.6′	E 23° 16.0′	72			6.0	ギリシア、クレタ			

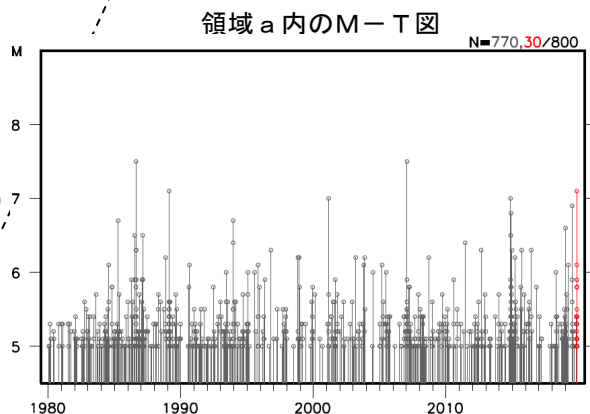
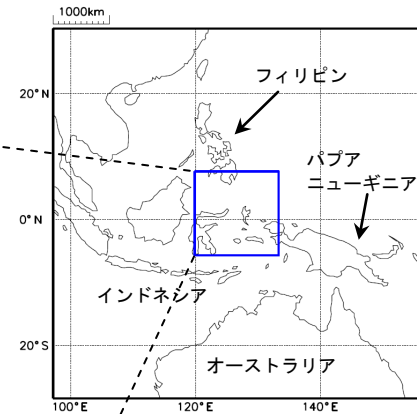
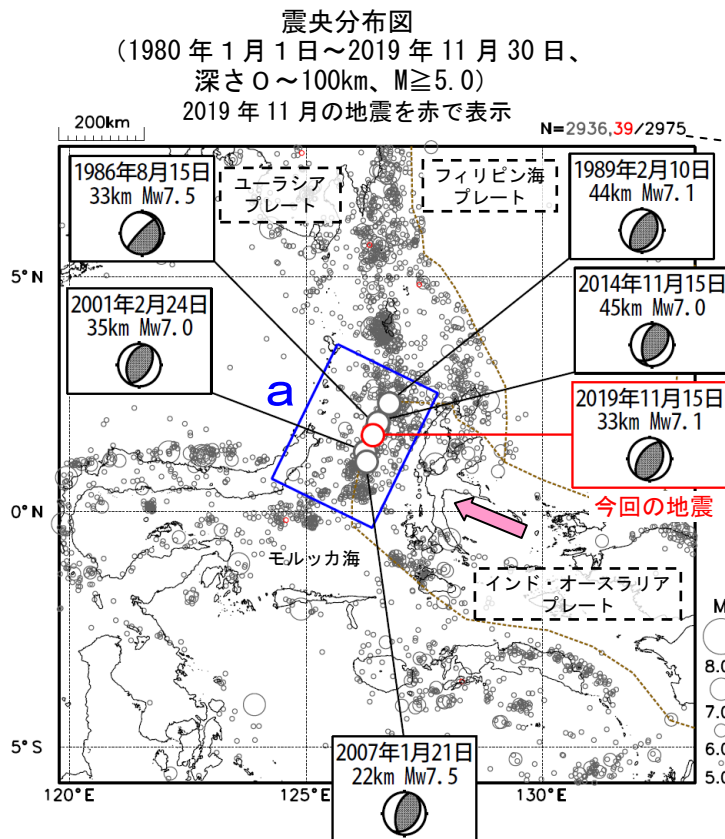
- ・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Earthquake Archive Search & URL Builder” (<http://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による(2019年12月1日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mjの欄に記載したマグニチュード、Mwの欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは、気象庁による。
- ・被害状況は、出典のないものはOCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所)、国内は、総務省消防庁による。
- ・地震発生時刻は日本時間 [日本時間=協定世界時+9時間] である。
- ・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (※) を発表したことを表す。
- ※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」(<https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/joho/nwpta.html>) 参照。
- ・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。
- ・深さに「*」を付したものは、気象庁によるCMT解のセントロイドの深さを表す。

11月15日 モルッカ海の地震

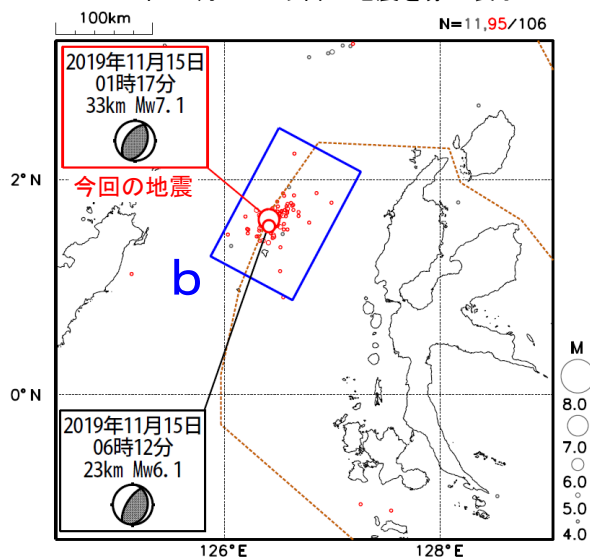
2019年11月15日01時17分（日本時間、以下同じ）に、モルッカ海の深さ33kmでMw7.1の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震により、負傷者3人等の被害が生じた。

気象庁は、この地震により、同日01時43分（日本沿岸で若干の海面変動あり）と、同日03時19分（現地で津波を観測）に遠地地震に関する情報を発表した。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、M7.0以上の地震が時々発生しており、2007年1月21日に発生したMw7.5の地震では死者4人、負傷者4人等の被害が生じた。

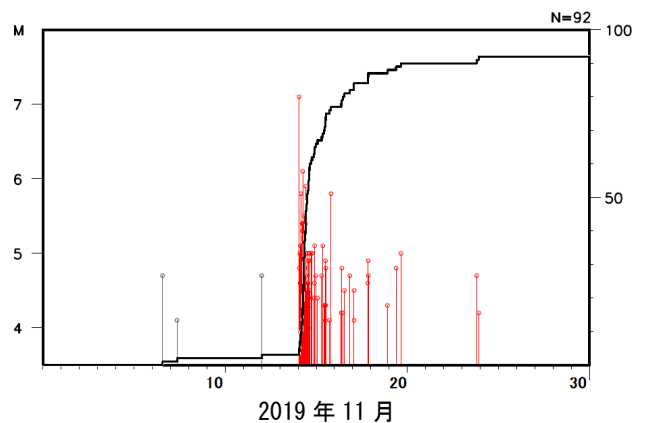


震央分布図
(2019年11月1日～30日、深さ0～100km、M≥4.0)
2019年11月15日以降の地震を赤で表示



----- プレート境界の位置
← ユーラシアプレートに対する
プレートの進行方向

領域b内のM-T図及び回数積算図



※本資料中、今回の地震、及び2014年11月15日の地震（Mw7.0）の発震機構（CMT解）及びMwは気象庁による。その他の発震機構（CMT解）、図中の注釈のついた地震のMwはGlobalCMT解による。その他の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（データ入手日：2019年12月1日）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。地震の被害状況について、出典のないものはOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所）による。

*参考文献

Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

気象庁作成